

ワイド

愛媛新聞 平成4年(1992年)2月6日(木曜日)

TV歌まね
小学生大会

全国ノド自慢の頂点に

ボクの小節は日本一

演歌歴10年、松山の小倉君



「北の鷗歌」を披露する小倉君

全国の小学生を対象にした「第六十三回全日本ちびっこ歌まね大賞」(テレビ東京主催)で松山市桑原小六年の小倉君(二歳)同市東本町二丁目が、全国のノド自慢を抑え見事グラントチャンピオン(優勝)に輝いた。

大会は年四回行われ、小倉君は、本年度の第一、三回大会に出場、審査員特別賞、大賞を受賞している「実力派」。グラントチャンピオンを決める大会は二日に東京で開かれ、これまでの入賞者二十人が出場して競った。

前奏がかかると曲のイメージにのめりこんだ」と落ち替いたもの。緊張しっぱなしの家族をしりぬに、足でリズムを取りながら拳(こぶし)を握って堂々の歌いっぷり。優勝決定の瞬間は、さすがに「まじかと思った。うれしかった」と感激を語る。

小倉君が演歌を始めたのは、二歳半の時。母親のおみさん(三毛)をまねて歌い始めたのがきっかけ。三歳で松山市内のカラオケ大会で準優勝して以来、さまざまな大会に出場してきた。

毎日、約一時間練習。レパートリーは三十曲。歌うコツはメリハリや強弱に注意、心をこめながら歌うこと。一昨年四月には、おじいさんが「近所の迷惑も考えて」と小倉君の自宅敷地内にカラオケボックスをブ

レセントしていった。今日の小倉君誕生には周辺の応援もあった。将来の夢はもちろん歌手。しかし学校の音楽はち

よっと苦手。歌っているうちにいついっしょ小節がきき過ぎ、演歌調になってしまうのが玉に傷とか。